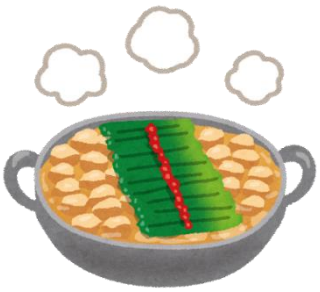
弥富北中学校学校便り　No. 13

至　誠

平成 29 年 12 月 4 日発行



人権週間～朝礼校長講話より～

今日１２月４日（月）から１０日（日）は、人権週間です。１９４８年１２月１０日に世界人権宣言が国際連合総会で採択されました。それを記念し１２月１０日が世界人権デーとされました。人権週間は、この世界人権宣言の趣旨と重要性を広く日本国民に訴えかけるとともに人権尊重思想の普及高揚を図るための週間として１９４９年に法務省と全国人権擁護委員連合会により定められました。今回で、第６９回の人権週間となります。

今回のテーマは､｢みんなで築こう　人権の世紀　～　考えよう　相手の気持ち　未来へつなげよう　違いを認め合う心　～｣です。

皆さんが、日頃から行っている国際理解のための学習や、平和学習も人権に関する勉強です。今日は、この後、生徒会が中心となって､弥富北中の人権集会も行われます。この機会に､改めて人権について考えてほしいと思います。

ところで、皆さんは、服部擔風（たんぷう）さんを知っていますか。あるいは、郁達夫（いくたつぶ）さんという名前を聞いたことがありますか。２名とも弥富市と大変関わりの深い人で、今年の春には、弥富市の歴史民俗資料館で特別展が開かれました。観に行った人もいるのではないでしょうか。擔風さんは、弥富で生まれ、生涯を弥富で過ごした人で、漢詩の発展に多大な功績を残した文学者です。同時に書や水墨画、和歌などでも優れた作品を残された多才な文学者です。今年は、その生誕１５０年を記念して特別展などの記念行事が行われました。一方、郁達夫さんは、中国の有名な文学者で、若い頃、今の名古屋大学へ留学し勉強をしていました。その時、文学について学ぼうと、擔風さんを訪ねました。その当時の日本は、昭和の初め、世界大戦の前であり、中国人（外国人）と言うだけで迫害差別を受けるような時代でした。しかし、擔風さんは、郁達夫さんを差別すること無く、暖かく向かえ、文学を通して交流を行いました。郁達夫さんは、その後、スマトラで日本語の通訳をしていましたが、終戦直後に日本兵によって命を奪われてしまいました。それでも、その後、郁達夫さんの子孫の方と、擔風さんが生涯を過ごした弥富とは交流が続いています。郁達夫さんの故郷には、郁達夫中学校という中学校があります。何年か前には、弥富市との交流として、郁達夫中学校の生徒による書の作品が送られ、弥富北中からも、作文を送ったそうです。また、郁達夫中学校開校６０周年記念式典には、弥富市が招待を受けているそうです。このように、今でも交流が続いているのはなぜでしょうか。擔風さんの高い人権意識のもとで行われた、過去の交流が素晴らしいものであり、郁達夫さんの家族や子孫の方に大変感謝されているから続いている交流だと思います。